淡路三原高校
同窓會報

発行所
兵庫県南あわじ市
兵庫県立
淡路三原高等学校
同窓会
印刷所　松栄印刷

住所の変更があった場合は必ず同窓会本部へご連絡下さい。

黎明会百周年記念式典

令和元年10月13日(日)、県立淡路三原高校　講義棟（ユズリハホール）において、黎明会百周年記念式典が催されます。三原高校同窓会・志知高校同窓会が淡路三原高校同窓会（黎明会）に一本化され13年が経ちました。大正8年（1919年）の不動りつ裁縫塾開設から数え、平成31年3月で100年となり百周年記念事業を実施することになりました。午前10時からの記念式典の後、10時30分より記念講演を開きます。講師として、庄司俊作氏（三原23回生　同志社大学名誉教授）をお招きし、「南あわじの農漁業と地域づくり」という演題でご講演いただきます。12時からの記念パーティーでは、淡路三原高校のこれからのますますの発展に向け語りあいましょう。

ご挨拶

同窓会長　池田　進（三原　二十回生）

天高く、稲穂も黄金色にと熟し、爽やかな好季節となりました。御清祥の事とお慶び申し上げます。平素は同窓会活動に、ご理解、ご協力賜わり誠に有難うございます。さて本年、黎明会（淡路三原校等同窓会）が百周年の記念すべき年となりました。来る10月13日（日）に記念事業を開催します。庄司俊作様（同志社大学名誉教授）にお願い致しております。後には親睦の場も用意しております。

今年は5年毎の同窓会名簿の発行の年に当たり7月に行いました。その節には広告なり賛助等、多大の御支援、御協力ありがとうございました。現在、本同窓会の各支部、各期生の活動も漸次活発化し、更新もされ本来の互助、親睦の組織の姿になりつつあります。先輩諸氏の御活躍は素晴らしく、その体験話などは若い者にとってとても勉強になり、人脈も豊かになり、又、目標とさせて頂きたいものです。

昨今の世界情勢は貿易戦争、核、ミサイル開発、温暖化による異常気象、環境汚染等、懸念する事が多い中、スポーツ界では野球の大谷翔平選手、バスケットボールの八村塁選手、ゴルフの渋野日向子選手、サッカーの久保建英選手の様に突如、シンデレラボーイやガールが現れ、私達に夢と希望を与えてくれています。若者は素晴らしい力を持っています。その能力を最大限伸ばして頂きたいです。三原の地にはこの土から培われた底力というものがある様に思います。その下の底力を見せてやって下さい。我が高校はそういう人間を育て、創り上げて、送り出す学校です。同窓会も全面的に後押し、充実した教育環境づくりを支援してまいります。共に頑張りましょう。

最後になりましたが、会員の皆様の益々の御健勝と御多幸をお祈りして挨拶とします。

行きたい・行かせたい・行って良かった淡路三原

校長　有働　敏美

同窓生の皆様、日頃は本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。三原高校と志知高校の発展的統合により誕生した淡路三原高校は、本年度で創立13周年となりますが、同窓会組織の方は三原高校の同窓会と志知高校の同窓会が一つになり、ちょうど100周年という節目の年を迎えています。10月13日には、同窓会主催の100周年記念行事を本校講義棟において予定しています。多くの同窓生の皆様のご参加を心よりお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

毎年5月2日に実施している創立記念行事の関係で、今年度は5月24日に実施しました。記念講演の方は、同窓会特別顧問の守本南あわじ市長に「高校生活を社会で生かすには」との演題で、ご講演いただきました。勉強やスポーツから学んだことや学生時代の成功と失敗、そしてそれらが現在どう生かされているかなどについて、自己の経験に基づいたお話をしていただき、生徒達にとって素晴らしい学びの機会となりました。例年この時期に実施している創立記念講演では、県外各地で活躍されている同窓生の方々を講師としてお迎えし、ご講演いただいており、いまなお同窓生の皆様には、淡路三原高校との「縁」を大切にしてもらっていることをとても有り難く感じております。また、昨年度は同窓会東京支部と京都・滋賀支部、東海支部の3つの総会に出席いたしました。活発に活動され、母校（淡路三原高校）のことを応援してくださっていることがわかり、本当に心強く感じました。心より感謝申し上げます。

さて、本校の使命（ミッション）は、「地域の生徒を、地域や社会を潤す人財へと育てること」です。現在、知・徳・体のバランスのとれた真の文武両道教育を目指して、「行きたい・行かせたい・行って良かった淡路三原～勉強もできる・部活動もできる・進路目標も達成できる学校～」をキャッチフレーズとして、地域に愛される学校づくりに努めています。部活動の方では、体育部、文化部ともに活発に活動し、ビーチバレーで2年連続全国優勝するなど、多くの部が全国大会や近畿大会などで活躍しています。また、進路実績の方も堅調で国公立大学に32名合格するなど、ほとんどの生徒が希望進路を実現しています。

現在、魅力ある学校づくりの一環としてICT環境の充実とその有効活用を目指した計画を進めています。具体的には、①電子黒板やタブレット等のICT機器をツールとして、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを進めること、②快適なWiFi環境により、SHR等で生徒が自主的にスマートフォンやタブレットを用いて、スタディサプリなどのアプリで自学自習できる環境を整えること（個別学習と学習習慣の確立）などに取り組みたいと考えています。こうした計画を推進するために、寄附金を募集しておりますので、同窓生の皆様にもご協力いただければ幸甚に存じます。

最後に、同窓生の皆様のご健勝とますますのご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

淡路三原高等学校 同窓会百周年記念行事

ご案内

日時　二〇一九年十月一三日（日曜日）
於　淡路三原高校・講義棟
内容　十時〇分より式典
十時三十分より記念講演
（講師・庄司俊作氏（三原23回生）
同志社大学名誉教授）
十二時より記念パーティー

問い合わせ
兵庫県立淡路三原高等学校同窓会
・本部事務局
〒六五六－〇四六一　兵庫県南あわじ市
市円行寺三四五－一
電話　〇七九九－四二－〇〇四八
ＦＡＸ　〇七九九－四二－〇三一三

同窓会本部及び支部連絡先

本部　六五六－〇四六一
兵庫県南あわじ市市円行寺三四五－一
兵庫県立淡路三原高等学校同窓会
電話(〇七九九)四二－〇〇四八(代)
ＦＡＸ(〇七九九)四二－〇三一三
郵便振替口座
〇一一〇－五－六八五七九

三原支部　六五六－〇四二六
南あわじ市榎列大榎列甲四
野口　健一郎（三原23）
電話(〇七九九)三五－〇三

南淡支部　六五六－〇五〇一
南あわじ市福良甲
阿部　員久（三原27）
電話(〇七九九)三〇－〇六五一

西淡支部　六五六－〇六五一
南あわじ市伊加利一八四一
前田　和義（三原24）
電話(〇七九九)五－〇五六四

緑支部　六五六－〇一二一
南あわじ市広田広田一〇四六
奈良　敬宏（三原25）
電話(〇七九九)四〇－三〇

洲本支部　六五六－〇一〇一
洲本市納七〇七－一
木戸　清隆（三原24）
電話(〇七九)二四－五九二四

津名支部

神戸支部　六五一－二三一三
神戸市西区神出町田井
佐伯　尚（三原18）
電話(〇七八)九一－一八七二

大阪支部　五六六－〇〇〇一
大阪府摂津市千里丘
四－九－三八－六〇二
阿部　賞久（三原27）
電話(〇六)六一－五八八二

京都滋賀支部
六〇六－〇九〇四
京都市左京区松ヶ崎
柳井田町十一
庄司　俊作（三原23）

東京支部　一五二－〇〇三四
東京都目黒区緑が丘
二－八－一九サンシャインハウス自由が丘B1
鼎　博之（三原24）
電話(〇三)三八一〇－〇四一

奈良支部　六三九－一〇四一
大和郡山市小泉町
一五九－一一四
前川　明久（三原18）
電話(〇七四三)二四九五

東海支部　四六〇－〇〇二二
名古屋市中区千代田三－一三
一－一三シティコーポ
千代田六〇〇五
阿部　智彦（三原24）
電話(〇三)三一二〇八三

淡路三原高校同窓会のホームページ
https://awajimihara-dosokai.jimdo.com
アドレスが変わりました。
淡路三原高校のホームページからもアクセスできます。
http://www.hyogo-c.ed.jp/~awajimihara-hs/

支部だより

東京支部

支部長　鼎　博之

東京支部（ゆづるは会）は、6月8日(土)正午から、令和元年度の総会・懇親会を市ヶ谷の私学会館で開催しました。今年度は、会員の出席が39名、ゲストも含めると45名の参加となりました。淡路三原高校からは有働敏美校長先生にご参加いただき、さらに、地元南あわじ市総務企画部の副部長兼ふるさとつながり開発室室長の前田様と同係長の彦坂様、また東京兵庫県人会の井口常任幹事、兵庫県東京事務所次長の西谷様にもご参加頂きました。

総会では、有働校長先生に来賓挨拶をお願いし、淡路三原高校が着々と地域の拠点校として、充実した教育活動がなされていること、進学就職においても、生徒の多様な進路指導がなされていることなどの紹介をいただきました。また、グローバル化の進展やＩＣＴ、ＡＩなどの情報技術の急激な発達に対応するための県立学校環境充実応援プロジェクトとしての「ふるさとひょうご寄付金」制度の紹介などがなされました。

次いで、恒例の集合写真の撮影を行い、懇親会に移りました。懇親会の冒頭、ゆづるは会同窓会長の池田進様（20回生）から、ご挨拶をいただき、乾杯の音頭をお願いしました。

懇親会の場では、昨年同様、週末昼間開催ということで、女性の参加者が、15名と多く、ご夫婦で参加された方もみられ、和気藹々とした雰囲気でした。また、参加者のもっとも若い会員が平成21年卒業の平岡美咲様ということで、かなり若返りが図られたように思います。また、地元南あわじ市ふるさとつながり開発室室長の前田様と同係長の彦坂様も、東京支部の会員が故郷とつながりが持てるようなお話をいただき、一気に淡路島の話題で盛り上がりました。

来年度も、週末開催を再度実施するということで、本年と同じアルカディア市ヶ谷私学会館にて、2020年6月6日(土)正午開催を予定しております。さらに若い会員や女性会員の参加をお願いしたいと思います。今後とも、会員各位のご支援をよろしくお願いいたします。（了）

東海支部

支部長　阿部　智彦

東海支部の同窓会は、11月の第2日曜日、名古屋城近くのＫＫＲホテル名古屋において16名（1名は奈良県から）の参加のもと開催されました。当日は、淡路三原高校から池田同窓会長、有働校長先生にお越しいただき、最近の各支部の状況、高校のクラブ活動の活動状況、進学、就職の状況等に加えご自身の、種々の体験談等、貴重なお話をうかがうことができました。

懇親会では、ホテル自慢の料理、美酒を堪能しながら例年恒例の日野さん、荒内さんご姉妹の三味線伴奏に合わせて参加者全員で、黎明歌から始まる全校歌の合唱、会終盤では各参加者から近況報告が行われる中、多くの質問が飛び交い、あまりの盛り上がりに閉会予定時間を少し過ぎてしまうほどでした。

東海支部の今後の目標ですが「若い方、新しい方の参加による同窓会の輪の拡大」です。東海地域にお住いの方、活躍されて方に一人でも多く参加していただき、東海支部の輪を少しでも大きくすることができればと願っています。大学生の方も大歓迎です。新しい土地での出会いも素晴らしいことですが、その地域で同郷の人達と淡路弁で故郷淡路の様々なことについて話を弾ませることも懐かしく感じられてとてもいいことではないでしょうか？今年も昨年と同時期、同ホテルで開催します。是非、ご参加ください。お待ちしております。

京都滋賀支部

支部長　庄司　俊作

京都・滋賀支部の2018年同窓会を11月4日(日)、京都市のがんこ高瀬川二条苑において開催しました。同会には有働敏美校長、池田進同窓会長に出席していただいたほか、大学生3名を含む17名の会員が出席しました。

2018年から親睦会に先立ちきちっと支部総会を開くことにしました。2018年度決算と2019年度予算、支部規則の改称（会則）・改定、新たな幹事体制を提案し承認されました。支部の活動が会員の皆さまにとってさらに身近なものになればと思い始めました。また、親睦会における当日の話題提供として前支部長鳥井清司氏に「私の出会いと仕事」と題してこれまでのお仕事を振り返っていただきました。氏の手に掛かると、むずかしい専門の話もすうっと頭に入ってくるから不思議です。

2018年も学生会員の参加が続きました。彼らが将来の目標・希望など語ってくれたこともあって、会が和やかな雰囲気になりました。当日の会費も、支部活動費を活用して、現役の学生が参加しやすいように配慮しました。京滋地区で学ぶ多数の学生に寄り添うことも支部の重要な役割と認識しています。同窓会への参加が契機となって大学の枠を超えた学生同士のつながり・交流ができることを願っています。

同時に一般の会員には、一度参加してみるか、と気楽に思っていただけるような支部、同窓会にすることも引き続き重視していることです。

そのため、会員の名簿を整備するなど、参加への呼びかけをより積極的に行うようになりました。その結果、出欠の返事にメールが増えたことも2018年の特徴です。メールの利用を推進する一方、葉書やファックスの利用などで返信の方法を多様化して参加を募っていきたいと思っています。この原稿を書いている7月下旬の時点で、会員に2019年同窓会の日程調整のアンケートを行い、その結果を踏まえ日程を決定したことも申し添えておきます。

2019年同窓会は来たる10月26日（土）、「がんこ高瀬川二条苑」店（2018年と同じ）において行います。同店の場所は京都市中京区木屋町通り二条下ル、地下鉄東西線京都市役所前徒歩5分、京阪三条駅8分の距離にあります。明治の元勲山県有朋が別邸を建設したとき、小川治兵衛により改修された「高瀬川源流庭園」と称される庭園と和風建築のお屋敷をゆっくり見学できる楽しみもあります。

当日の話題提供として、池上擴朗さん（昭39）からご自分が撮られた山岳写真についてお話をいただきます。また、学生を含め出席された方に「高校卒業後の人との出会い」、「京都・滋賀で暮らす楽しみ」、「学生生活と今後の希望」等のテーマで短いスピーチをしていただきます。できるだけ多くの方に参加していただき、楽しい時間を過ごしたいと思います。どうか誘いあってご参加ください。

〔追記〕京都府、滋賀県にお住まいで昨年同窓会の案内が届いていない方は支部まで連絡ください。

大阪支部

支部長　阿部　賞久

池田会長を筆頭に同窓会運営にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

6月1日、2日、たまねぎの収穫に阿万吹上に帰っていました。この時期、西淡三原インターを降りると「ふるさとの香り」が満ち溢れているのを感じて、嬉しくなるのは私だけなのでしょうか？

さて大阪支部の活動ですが、平成28年（2016）10月30日に支部総会を開催した後、5年に1度で次は令和3年（2021）年に予定していますが、こんなペースで開催をしていいものか？と少し不安になっております。大阪支部の皆さんをはじめ、ご意見をいただけると幸いです。7月には、再度同窓会名簿が発行されますので、大阪支部の組織を完全につくっていきたいと考えております。ご案内を差し上げますので、どうか積極的なご参加をお願い申し上げます。

この度の同窓会案内で、10月には100周年記念事業が開かれるとのことで、伝統と歴史をしっかりと継承しなければと、痛感しています。

母校が発展することは同窓生の大きな楽しみの1つです。淡路三原高校がますますご隆盛で、現役の生徒の皆さんが、ご活躍なさることを心よりご祈念いたします。

神戸支部

副支部長　橋田之宏

平成29年3月に23年ぶりとなる総会を開催できた神戸支部では、令和元年6月8日に2回目の総会を開催いたしました。55人も参加していただいた前回に比べ、今回は30人と小ぶりでしたが和気藹々とした楽しい会になったと喜んでいます。神戸支部はふるさと淡路島に近いゆえに、その存在が意識されにくい面もありますが、2回の開催を踏まえ二つのあり方が見えてきたと思っています。

一つは、同窓会の皆さんの経験共有の場としていきたいということ。前回は42年卒竹田さん主宰の阿波踊りで「ちるど連」で楽しませていただきました。今回は50年卒印部さんのご講演「認知症予防と人生百年時代」で勉強させていただきました。会員の皆様の中には興味深い活動をされている方もいらっしゃいますので、それらの発表及び学びの場にできたらと思います。

もう一つは、この場をお仲間とのミニ同窓会の場としてご利用していただけたらということです。この会は2年ごとに開催します。幸い神戸支部は会員の数が多いので、お互いに誘い合って集いの場に利用していただければと思います。

最後になりましたが、今回も同窓会本部から小島副会長と岡崎先生、永田顧問、お隣の大阪支部から阿部支部長をお迎えすることができました。また、ご参加くださいました皆様、お手伝いくださいました支部役員の皆さま、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。2年後は大阪支部との合同開催を企んでいます。両支部の皆さま、ぜひご参加ください！

活躍する同窓生

東田　まき 氏　三原41回生

三原高校を卒業し、30年余りが過ぎました。現在私は、京都最北端の京丹後市にある山間の人口400人ほどの地域で、地域のお店「つねよし百貨店」を営んでいます。また3年前から京丹後市の市議会議員として、子育てをしながら活動をしています。

短大卒業後、大阪、神戸そして東京でトータル20年働き、その後、縁もゆかりもなかった京都府の最北端、京丹後市に夫と息子と移住し9年が過ぎました。

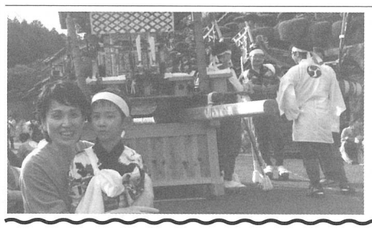
京丹後市は淡路と同じように海もあり、自然豊かで食材も豊富なところで、丹後ちりめんや間人ガニの産地でもあります。また近年は少ないですが、とても雪が多いのでスノータイヤと長靴が欠かせないところが淡路と大きな違いかもしれません。

ここに至るまでの経緯を少しお話したいと思います。元々、夫の国の研修制度がきっかけで東京から京丹後に移住しました。私達が移住した当時、私の住んでいる村に「常吉村営百貨店」という地域の商店がありました。そのお店は、JAの商店が廃止となった後、村の人たちが自ら出資して自分たちの暮らしは自分たちで守るというコンセプトのもと、今でいう買い物弱者対策に地域住民自ら取り組んだ事例としても度々表彰も受けているお店でした。そして「百貨店」というインパクトのあるお店の名前から「日本一小さな百貨店」としてテレビなどでも度々取り上げられていました。その地域で唯一のお店が代表の体調不良などもあり、15年の歴史に幕を閉じることになりました。そこで移住者でありながら地元住民としてお店を手伝っていた夫が突然引き継ぎたいと言い出しました。正直私は全く乗り気ではありませんでしたが、百貨店は、地域みんなの交流の場であり、見守りの拠点であり、地域の高齢者や子どもたちにとってなくてはならない場所であり、百貨店をこのまま途絶えさせるのはもったいない、という想いから引き継ぐ覚悟を決めました。当時、息子が2歳ということもあり、しばらくは本当に大変で、無我夢中の毎日で、買い物に行けない高齢者の食材を配達や、地域の人たちや子ども達が集まってくるコミュニティの場所として「つねよし百貨店」を営んでいました。数年経ち、雪の積もる丹後での暮らしやお店の運営にも少し慣れてきたころ、子育てしながら地域で活動する私をみて、市会議員にでてみないかと、ある方からお声がかかりました。政治にもそうも興味はなく、しかもよそ者で女性、親戚縁者もいない中で、最初は全くその気はありませんでした。そして、誘いに根負けし（笑）立候補することになりました。そして地元の方々の協力を始め、支援していただいた皆様のお陰で当選することができ、現在に至っています。議員になって改めて、生活と政治は繋がっていると強く感じ、地域の中で子育てをしながら「つねよし百貨店」を運営することは、議員活動として、とてもプラスになっています。

振り返ってみると、三原高校を卒業後、結局淡路にUターンすることなく、現在に至っていますが、言えるのは想像していたのとは全く異なる人生を歩んでいることです。そんな人生に不思議さと面白さを覚えています。なぜこんな人生を歩んでいるかを分析してみると一つはやはり「人」。東京に転職するきっかけをつくってくれた友人、東京で知り合った夫、常吉村営百貨店の代表、私を議員にと声をかけてくれた方、全て「人」がきっかけでした。もう一つは、私の座右の銘でもある、太陽の塔で有名な岡本太郎さんの言葉があります。「迷ったときは危険な方を選べ」。少々過激な言葉かもしれませんが、人生の岐路に立ったとき困難な方を選ぶというものです。30歳を超えて転職で東京に行った時、京丹後に移住した時、つねよし百貨店を始めた時、議員に立候補した時、その時どれもなり悩みましたが困難な方を選びました。選択した後、苦しいこともありましたが結果的にはチャレンジして本当によかったと思っています。そしてこれからの人生も色々と困難なことが待ち受けていると思いますが、樹木希林さんの言葉の「おごらず、人と比べず、面白がって平気に生きればいい」をモットーに、そして当たり前のようにある、家族との日々の暮らしに感謝することを忘れないよう生きたいなと思っています。

機会がありましたら丹後にお越しください。来年、丹後ちりめんは創業300年を迎えます。カニ以外にもブドウ、梨、メロンなどフルーツや、酒蔵、温泉も楽しめます。また四季がはっきりしているのも魅力の一つです。

最後になりましたが、同窓会の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りしています。



創立記念式典　記念講演

南あわじ市長　守本　憲弘氏

五月十四日、淡路三原高等学校第十三回創立記念式典が本校体育館で行われた。今年度は、南あわじ市長守本憲弘氏をお招きし、「高校生活を社会で生かすには」というテーマで、講演していただいた。守本氏の高校時代のご経験が社会でどう生かされてきたかというお話で、高校時代、スポーツで鍛えた集中力やスタミナ、様々な科目の勉強で培った考え方や勉強方法が、これまでにいかに役立ってきたかということを守本氏の経済産業省や外国での経験、現在の南あわじ市長としてのお仕事の話を交えながら話された。そして「仕事をする、とは、人の心を動かし、その人の行動を変えること」というこれから社会に出て行く高校生へのアドバイスをいただいた。今まさに高校生活を送る生徒たちは興味深そうに話に耳を傾け、守本氏は、「一番大事なのは、挑戦を楽しむことだ」と生徒たちにエールを送られた。

10回生の皆さんへ

伊達　保光

淡路三原高校10回生の皆さん、元気でお過ごしでしょうか？卒業して半年が経ちました。2019年4月から本校に在籍している10回生学年団は、9名中7名ですが、内2名は海外へ行っています。君たちは去る2月27日に無事卒業式を終え、大きな自信と誇り、少しの不安を感じながら、新しい道に進んでいく決意を新たにしたことでしょう。私達学年団は、未来ある君たちが大人への階段をまた一つ上ったことへの喜びと、ここまで来たことへの安堵を感じていました。在学中に重ねた様々な経験、ある時は喜びや達成感を味わい、ある時は傷つき苦悩し、そして挫折を乗り越え、君たちは大きく成長しました。

君たちには、学年通信等で様々な言葉を投げてきました。最後に私からささやかなエールを贈ります。アップル創業者、スティーブ・ジョブスが語った言葉です。「ハングリーであれ。愚か者であれ。自分の心に従って、真っ直ぐに、目の前のことに貪欲になって、歩んでいってください。過去を振り返ったり、未来を憂いたりする必要はなくて、皆さんは、ただただ今を精一杯に生きる。それだけで輝くことができる。」どうかこの言葉を胸に留め置き、励みにしてもらえたらと思います。君たちの更なる成長を少し離れたところから見守っています。

令和元年度　同窓会総会報告

令和元年度の同窓会総会は、5月18日（土）午前10時より同窓会館「黎明館」で開催されました。会は以下の議題で議事が進行しました。

「議題」

1、平成30年度　会務報告
2、平成30年度　決算報告・会計監査報告
3、役員改選
4、令和元年度　事業計画
5、令和元年度　予算

慎重に審議していただいた結果、全議題とも可決されました。新たに三浦翔君、松坂保菜美さんが10回生の幹事となりました。総会後、例年通り懇談会が開かれ、和やかなひとときを過ごしました。

同窓会総会は、毎年5月第3土曜日午前10時より本校黎明館におこなわれます。来年度は5月16日になります。多数の会員のご参加をお待ちしています。

十回生卒業記念品紹介

10回生卒業の皆さまより、卒業記念品としてウォータークーラーを寄贈していただきました。

ありがとうございました。

同窓会に入会して

10回生　三浦　翔

2月に淡路三原高校を卒業し、3月より社会人としてのスタートを切りました。これまでは学生という立場で生活をしてきましたが、今は社会人。まだ社会人になって間もないですが、日々社会の厳しさというものを実感しています。

今ふと高校時代を振り返ってみると、たった3年間という短い期間ですが楽しかった事、辛かった事、頑張った事、高校生で経験した事がたくさん思い浮かぶ。校生活の何気ない日々がどれほど貴重なものだったかと実感します。あの時、もっとこうすればよかったなどと思う後悔したこともたくさんあります。しかし今となってはいい思い出です。高校3年間を含む学生時代での経験はこれから社会人として成長をしていく中で、大切に活用していきたいと思います。

また学生時代の経験だけでなく、今まで私が育つ中で家族、友達、先生方をはじめとするたくさんの人々の支えがあり、今の私があることが思います。今、働くことが出来ている力だけで決して自分だけの力だけでは得たものではない。たくさん方々の手助けのおかげで手に入れることが出来たのだと思います。それは決して当たり前のことではなく本当にありがたいことだと思うので、感謝の気持ちを大切にこれからも頑張ります。

この度10回生の同窓会幹事になりました。何もわからない状態ですが、選ばれたからには精一杯頑張っていこうと思います。次第でございます。よろしくお願い致します。

10回生　松坂　保菜美

淡路三原高校を卒業し、4月から看護学校にお世話になりました。通学経験者だったのでのんびりと過ごしていたいと思っていましたが、始めてから数ヶ月が経ちました。同年代の学生と共に学校生活を送ったのは、普段聞くことのない話を聞いたり、高校生活とは違う環境での生活でのびのびとした毎日でした。

オンリーワンの淡路島の観光パンフレットを作ることになりました。多くの人に励んでいます。

日増しに勉強が難しくなってきました。最初は試験が難しくて、専門用語を覚えるのに苦労しました。毎日の勉強の積み重ねが大事だと思いました。

講義を聞いてもなかなか理解できず、集中力が続かない自分に駆られました。

焦燥感に駆られました。

「慣れない学校生活を送っていたのが、毎日の勉強の積み重ねが大事だと思いました。

「後悔先に立たず」ということわざがあるように、学生時代に勉強をしておけばよかったと思うことが多くあります。

学生時代の経験は、社会人になってからも役に立つことがあると思います。

学生時代の経験は、社会人になってからも役に立つことがあると思います。

学生時代の経験は、社会人になってからも役に立つことがあると思います

支部だより

東京支部

支部長　鼎　博之

東京支部（ゆづるは会）は、6月8日(土)正午から、令和元年度の総会・懇親会を市ヶ谷の私学会館で開催しました。今年度は、会員の出席が39名、ゲストも含めると45名の参加となりました。淡路三原高校からは有働敏美校長先生にご参加いただき、さらに、地元南あわじ市総務企画部の副部長兼ふるさとつながり開発室室長の前田様と同係長の彦坂様、また東京兵庫県人会の井口常任幹事、兵庫県東京事務所次長の西谷様にもご参加頂きました。

総会では、有働校長先生に来賓挨拶をお願いし、淡路三原高校が着々と地域の拠点校として、充実した教育活動がなされていること、進学就職においても、生徒の多様な進路指導がなされていることなどの紹介をいただきました。また、グローバル化の進展やＩＣＴ、ＡＩなどの情報技術の急激な発達に対応するための県立学校環境充実応援プロジェクトとしての「ふるさとひょうご寄付金」制度の紹介などがなされました。

次いで、恒例の集合写真の撮影を行い、懇親会に移りました。懇親会の冒頭、ゆづるは会同窓会長の池田進様（20回生）から、ご挨拶をいただき、乾杯の音頭をお願いしました。

懇親会の場では、昨年同様、週末昼間開催ということで、女性の参加者が、15名と多く、ご夫婦で参加された方もみられ、和気藹々とした雰囲気でした。また、参加者のもっとも若い会員が平成21年卒業の平岡美咲様ということで、かなり若返りが図られたように思います。また、地元南あわじ市ふるさとつながり開発室室長の前田様と同係長の彦坂様も、東京支部の会員が故郷とつながりが持てるようなお話をいただき、一気に淡路島の話題で盛り上がりました。

来年度も、週末開催を再度実施するということで、本年と同じアルカディア市ヶ谷私学会館にて、2020年6月6日(土)正午開催を予定しております。さらに若い会員や女性会員の参加をお願いしたいと思います。今後とも、会員各位のご支援をよろしくお願いいたします。（了）

東海支部

支部長　阿部　智彦

東海支部の同窓会は、11月の第2日曜日、名古屋城近くのＫＫＲホテル名古屋において16名（1名は奈良県から）の参加のもと開催されました。当日は、淡路三原高校から池田同窓会長、有働校長先生にお越しいただき、最近の各支部の状況、高校のクラブ活動の活動状況、進学、就職の状況等に加えご自身の、種々の体験談等、貴重なお話をうかがうことができました。

懇親会では、ホテル自慢の料理、美酒を堪能しながら例年恒例の日野さん、荒内さんご姉妹の三味線伴奏に合わせて参加者全員で、黎明歌から始まる全校歌の合唱、会終盤では各参加者から近況報告が行われる中、多くの質問が飛び交い、あまりの盛り上がりに閉会予定時間を少し過ぎてしまうほどでした。

東海支部の今後の目標ですが「若い方、新しい方の参加による同窓会の輪の拡大」です。東海地域にお住いの方、活躍されて方に一人でも多く参加していただき、東海支部の輪を少しでも大きくすることができればと願っています。大学生の方も大歓迎です。新しい土地での出会いも素晴らしいことですが、その地域で同郷の人達と淡路

弁で故郷淡路の様々なことについて話を弾ませることも懐かしく感じられてとてもいいことではないでしょうか？今年も昨年と同時期、同ホテルで開催します。是非、ご参加ください。お待ちしております。

京都滋賀支部

支部長　庄司　俊作

京都・滋賀支部の2018年同窓会を11月4日(日)、京都市のがんこ高瀬川二条苑において開催しました。同会には有働敏美校長、池田進同窓会長に出席していただいたほか、大学生3名を含む17名の会員が出席しました。

2018年から親睦会に先立ちきちっと支部総会を開くことにしました。2018年度決算と2019年度予算、支部規則の改称（会則）・改定、新たな幹事体制を提案し承認されました。支部の活動が会員の皆さまにとってさらに身近なものになればと思い始めました。また、親睦会における当日の話題提供として前支部長鳥井清司氏に「私の出会いと仕事」と題してこれまでのお仕事を振り返っていただきました。氏の手に掛かると、むずかしい専門の話もすうっと頭に入ってくるから不思議です。

2018年も学生会員の参加が続きました。彼らが将来の目標・希望など語ってくれたことも あって、会が和やかな雰囲気になりました。当日の会費も、支部活動費を活用して、現役の学生が参加しやすいように配慮しました。京滋地区で学ぶ多数の学生に寄り添うことも支部の重要な役割と認識しています。同窓会への参加が契機となって大学の枠を超えた学生同士のつながり・交流ができることを願っています。

同時に一般の会員には、一度参加してみるか、と気楽に思っていただけるような支部、同窓会にすることも引き続き重視していることです。

そのため、会員の名簿を整備するなど、参加への呼びかけをより積極的に行うようになりました。その結果、出欠の返事にメールが増えたことも2018年の特徴です。メールの利用を推進する一方、葉書やファックスの利用などで返信の方法を多様化して参加を募っていきたいと思っています。この原稿を書いている7月下旬の時点で、会員に2019年同窓会の日程調整のアンケートを行い、その結果を踏まえ日程を決定したことも申し添えておきます。

2019年同窓会は来たる10月26日（土）、「がんこ高瀬川二条苑」店（2018年と同じ）において行います。同店の場所は京都市中京区木屋町通り二条下ル、地下鉄東西線京都市役所前徒歩5分、京阪三条駅8分の距離にあります。明治の元勲山県有朋が別邸を建設したとき、小川治兵衛により改修された「高瀬川源流庭園」と称される庭園と和風建築のお屋敷をゆっくり見学できる楽しみもあります。

当日の話題提供として、池上擴朗さん（昭39）からご自分が撮られた山岳写真についてお話をいただきます。また、学生を含め出席された方に「高校卒業後の人との出会い」、「京都・滋賀で暮らす楽しみ」、「学生生活と今後の希望」等のテーマで短いスピーチをしていただきます。できるだけ多くの方に参加していただき、楽しい時間を過ごしたいと思います。どうか誘いあってご参加ください。

〔追記〕京都府、滋賀県にお住まいで昨年同窓会の案内が届いていない方は支部まで連絡ください。

大阪支部

支部長　阿部　賞久

池田会長を筆頭に同窓会運営にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

6月1日、2日、たまねぎの収穫に阿万吹上に帰っていました。この時期、西淡三原インターを降りると「ふるさとの香り」が満ちあふれているのを感じて、嬉しくなるのは私だけなのでしょうか？

さて大阪支部の活動ですが、平成28年（2016）10月30日に支部総会を開催した後、5年に1度で次は令和3年（2021）年に予定していますが、こんなペースで開催をしていいものか？と少し不安になっております。大阪支部の皆さんをはじめ、ご意見をいただけると幸いです。7月には、再度同窓会名簿が発行されますので、大阪支部の組織を完全につくっていきたいと考えております。ご案内を差し上げますので、どうか積極的なご参加をお願い申し上げます。

この度の同窓会案内で、10月には100周年記念事業が開かれるとのことで、伝統と歴史をしっかりと継承しなければと、痛感しています。

母校が発展することは同窓生の大きな楽しみの1つです。淡路三原高校がますますご隆盛で、現役の生徒の皆さんが、ご活躍なさることを心よりご祈念いたします。

神戸支部

副支部長　橋田之宏

平成29年3月に23年ぶりとなる総会を開催できた神戸支部では、令和元年6月8日に2回目の総会を開催いたしました。55人も参加していただいた前回に比べ、今回は30人と小ぶりでしたが和気藹々とした楽しい会になったと喜んでいます。神戸支部はふるさと淡路島に近いゆえに、その存在が意識されにくい面もありますが、2回の開催を踏まえ二つのあり方が見えてきたと思っています。

一つは、同窓会の皆さんの経験共有の場としていきたいということ。前回は42年卒竹田さん主宰の阿波踊りの「ちるど連」で楽しませていただきました。今回は50年卒印部さんのご講演「認知症予防と人生百年時代」で勉強させていただきました。会員の皆様の中には興味深い活動をされている方もいらっしゃいますので、それらの発表及び学びの場にできたらと思います。

もう一つは、この場をお仲間とのミニ同窓会の場としてご利用していただけたらということです。この会は2年ごとに開催します。幸い神戸支部は会員数が多いので、お互いに誘い合って集いの場に利用していただければと思います。

最後になりましたが、今回も同窓会本部から小島副会長と岡崎先生、永田顧問、お隣の大阪支部から阿部支部長をお迎えすることができました。また、ご参加くださいました皆様、お手伝いくださいました支部役員の皆さま、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。2年後は大阪支部との合同開催を企んでいます。両支部の皆さま、ぜひご参加ください！